

全国学力・学習状況調査の結果及び分析・方策について 令和6年度

全国学力・学習状況調査は、3年生を対象に、学習指導要領で国が求めている学力の達成度と、学習への取組や生活習慣、学習環境などの状況について調査するためものです。今年度は始業式の次の週の4月18日の木曜日に、国語、数学について実施しました。

国では、この調査で測定できるのは学力の特定の一部であり、学校の教育活動の一側面にすぎないと説明していますが、結果を参考にしながら学びの質を向上させていきたいと思えます。

正答率%	国語	数学
本 校	5 6	5 2
鳥 取 県	5 7	5 0
全 国	58.1	52.5
全国との比較	-2.1	-0.5

※学校・県は小数を四捨五入して整数値のみを公表

【1 教科に関する調査をうけて】

右上の表のように、全体の正答率では国語が県平均、全国平均より少し低く、数学が県平均より少し高く、全国平均より少し低いという結果でした。

<国 語>

全体の平均正答率は、全国・鳥取県の数値ともに下回る結果であった。

「知識・技能」に関わる問題の平均正答率は全国・県とほぼ同じであったが、「思考・判断・表現」に関わる問題の平均正答率が全国・県を下回っていた。「思考・判断・表現」に関わる問題の中でも「話すこと・聞くこと」

教科	分類		区分	平均正答率(%)		
				湯梨浜中	鳥取県	全国
国語	全 体			56	57	58.1
	学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	58.6	56.7	59.2
			(2) 情報の扱い方にに関する事項	57.6	58.6	59.6
			(3) 我が国の言語文化に関する事項	77.2	79.8	75.6
		思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	51.7	56.1	58.8
			B 書くこと	63.4	64.3	65.3
			C 読むこと	47.6	46.2	47.9
	評価の観点		知識・技能	61.4	61.2	62
			思考・判断・表現	52.5	53.5	55.4
			主体的に学習に取り組む態度			
	問題形式		選択式	60.1	59.7	61
			短答式	59.8	59.8	61.8
			記述式	40.2	44.1	45.5

の領域において、全国と比較して－7.1ポイント、県と比較すると－4.4ポイントと平均正答率の低さが目立った。この領域の問題として今回の調査では【必要に応じて質問しながら話の内容を捉える趣旨のもの】と、【資料を用いて、自分の考えがわかりやすく伝わるように話す趣旨のもの】、【話し合いの話題や展開を捉えながら他者の発言と結びつけて自分の考えをまとめる趣旨のもの】が出題されていた。このうち【話し合いの話題や展開を捉えながら他者の発言と結びつけて自分の考えをまとめる趣旨のもの】以外の問題において平均正答率が全国・県を下回っていた。以前から引き続き、学年としての課題とされていた語彙の少なさが調査結果に現れていると考えられる。必要に応じて自らの持つ語彙の中から適切な語句を選択していかなければならないのだが、そもそもの語彙が不足していると考えられる。そこで、様々な言葉に触れさせ、語彙を増やしていくためにも、教科書で扱われている新出語句を丁寧に扱っているところである。また、意味調べをして終わりではなく、生徒が新出語句を自分なりに活用して文に取り入れる場面を設定していきたいと考えている。生徒の持つ語彙の量にはばらつきがあることも想定されることから、低学年ほど新出語句以外の語句についても確認しながら授業を進めていく必要もあると思われる。

質問紙では、「国語の勉強は好きだ」、「どちらかといえば好きだ」と答える生徒の割合は67.3%であり、その割合は全国、鳥取県と比べて少し高かった。また、すべての項目が全国、鳥取

県の平均を上回っており、今後も充実した国語教育を行っていきたいと考えている。その中でも、「国語の授業はよくわかりますか」、「国語の授業で話を聞いたり文章を読んだりするときに、具体的な情報と抽象的な情報との関係を捉えて理解していますか」、「国語の授業で、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えて文章を書いていますか」という発問については、全国平均を大きく上回っていた。

<教科に関する質問紙の結果>

【国語】

肯定的回答が全国平均をかなり（５％以上）上回った項目

◎国語の授業の内容はよくわかりますか。

◎国語の授業で話を聞いたり文章を読んだりするときに、具体的な情報と抽象的な情報との関係を捉えて理解していますか。

◎国語の授業で、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えて文章を書いていますか。

肯定的回答が全国平均をかなり（５％以上）下回った項目

なし

<数 学>

全体の平均正答率は、全国と比べると少し低いが、鳥取県よりは少し高い結果であった。

評価の観点別では、「知識・技能」の観点は県よりも３ポイント、全国よりも０.５ポイント高いが、「思考・判断・表現」は県よりも０.３ポイント、全国よりも２.３ポイント低い結果になった。

教科	分類	区分	平均正答率(%)		
			湯梨浜中	鳥取県	全国
数 学	全 体		52	50	52.5
	学習指導要領の領域	A 数と式	50.3	47.4	51.1
		B 図形	38.6	37.3	40.3
		C 関数	59.6	58.6	60.7
		D データの活用	57.2	54.9	55.5
	評価の観点	知識・技能	63.6	60.6	63.1
		思考・判断・表現	27.0	27.3	29.3
		主体的に学習に取り組む態度			
	問題形式	選択式	57.8	56.7	58.5
		短答式	68.4	63.8	67
記述式		27.0	27.3	29.3	

「データの活用」の領域は、鳥取県、全国よりも２ポイント以上高いという結果だった。それ以外の単元は、鳥取県より高いが、全国よりも低かった。県、全国両方の平均よりも低い結果になった問題は、文字式の証明と式やグラフを用いて説明する問題であった。それらを踏まえて、今後の授業では、データをまとめたり、ある事象をいろいろな表現を用いて説明したりするような場面設定を取り入れ、基本的な計算だけでなく、より深い数学的な理解を促していくような授業を展開していきたい。また、「このデータが表していることは何か？」などについて、根拠をもとに式、表、グラフなどを用いて表現するような活動も取り入れていきたい。そんな学習を通して、数学的な知識を獲得していく授業構成、単元構成を目指していきたいと考えている。

質問紙では、「数学の勉強は好きだ」、「どちらかといえば好きだ」と答える生徒の割合は５０％くらいで、その割合は鳥取県や全国に比べてかなり低い結果でした。また、「数学の授業はよく分かりますか」、「数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」、「数学の授業で学習したことを、今後の学習で活用しようとしていますか」という質問で肯定的な回答をした生徒の割合も、鳥取県や全国に比べて低い結果で、日々の生活、

<教科に関する質問紙の結果>

【数学】

肯定的回答が全国平均をかなり（５％以上）上回った項目

なし

肯定的回答が全国平均をかなり（５％以上）下回った項目

▲数学の勉強は好きですか。 ▲数学の授業はよく分かりますか。

▲数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか。

▲数学の授業で学習したことを、今後の学習で活用しようとしていますか。

授業の中で、数学の必要性や学ぶ意味・意義が感じられていないことがわかる。質問紙の結果より、数学の必要性や学ぶ意味・意義が感じられていない生徒が多いことから、日々の授業や単元の導入時において、数学と生活との関わりを具体的に示しながら、かつ、それによってどのような力がつくのかを生徒に伝えていきたいと考えている。

【2 学習への取組や学習環境などに関する調査をうけて】

この調査は質問紙によって、学校や家庭での生活や学習の状況を尋ねたものです。これまでの調査から、学力と生活環境は関係が深いと言われています。県や全国に比べて、本校の3年生は以下の特徴が見られます。

【望ましい傾向の項目】（肯定的回答が全国平均より多い〈3P 以上〉。◎は特に多い〈8P 以上〉。）

- 朝食を毎日食べていますか。
- 学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの1時間以上、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く）。
- 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。
- 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。
- 新聞を読んでいますか。
- ◎1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を使用しましたか。
（その他、ICT関係の質問7問中4問が◎、2問が○であった。）
- 1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。
- 1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。
- 1、2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。
- 学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。
- 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。
- 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。
- あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。

【課題があると思われる傾向の項目】

（肯定的回答が全国平均より少ない〈3P 以上〉。▲は特に少ない〈8P 以上〉。）

- ▲携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。
- △自分には、よいところがあると思いますか。
- △将来の夢や目標を持っていますか。
- △いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。
- △学校に行くのは楽しいと思いますか。
- ▲学校の授業時間以外に、普段1日1時間以上勉強をしますか。

▲土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日1時間以上時間勉強をしますか。

今回の調査での結果で、学校の取組として最も大きな成果を感じているのはICT教育の充実である。ICT教育に関わる発問に関しては、どの発問も全国、県を下回るものがなく、多くの発問が大きくポイントを上回っていた。普段、教職員が授業の中で当たり前のようにタブレット端末を使用している成果の表れではないかと思う。その反面、スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人との約束ごとがなかったり、守れていなかったりする生徒が全国平均よりも多いことがわかった。2学期には、生徒、保護者ともに、情報モラル講演会を予定しているが、今後も様々な場面で啓発を行っていきたいと考えている

そして、ここ数年間の湯梨浜中学校の最も大きな課題だと感じているのが家庭学習時間の少なさである。今年度の3年生も、平日1時間以上家で勉強している生徒の割合が全国平均と比較して20%少なく、休日2時間以上勉強している生徒の割合も7%少なくなっている。当然この家庭学習時間の少なさが正答率にも影響していると考えられ、それが自己肯定感（自分には良いところがある）の低さ、将来の夢のなさにもつながっているのではないかと考える。そこでまずは、3年生において進路学習の取組を進めながら、家庭で学習する意義についても繰り返し指導していききたいと思う。さらに、日常の授業を今以上に充実させるためにも、協同学習の理念（クラス全員で協力して、みんなが勉強をわかるようになろう）に基づいた学習を徹底させ、家庭でも学習したいと思えるような授業づくりを目指していききたい。それとともに、小中学校で連携して家庭学習時間の増加を目指すとともに、家庭での学習習慣づけの協力を保護者にも呼びかけていきたい。

ただ、これらの対応はあくまでも全体での取組で、生徒個々の課題、弱点は1人ひとり違っている。そこで、当たり前のことではあるが、今後も個に応じたきめ細やかな指導を継続し、生徒1人ひとりの課題と向き合っていきたいと考えている。